

15. 岡山県における肺 *M.kansasii* 感染症の現状と疫学についての検討

三 村 公 洋

指導教授：松 島 敏 春

非結核性抗酸菌症である *M.kansasii* 感染症は人から人へは感染せず、環境水や土壌から分離される事が多いとされている。以前は関東及びその周辺地域に限局すると考えられていた本症であるが、岡山県でも1976年に水島工業地帯で第一例目が発見されて以来、同地域を中心として同心円状の患者数の増加と周辺地域への広がりを指摘されている。この度、1994年から2000年の間で本症の発生状況を再調査し、その結果から本症の動向と疫学について検討した。

〔目的〕岡山県における *M.kansasii* 感染症の疫学調査と感染経路に関する研究。

〔方法〕岡山県内の主要な医療施設32病院に対して1994年から2000年の間に発見された *M.kansasii* 感染症についてアンケート調査を行い、症例数の推移と発生地域の広がりについて検討する。同時に感染経路を特定するために症例数の多い水島工業地帯に在る任意の施設から、水道水をサンプルとして採取し、通常の抗酸菌培養方法を用いて培養した。DDH法により菌種同定を行った。

〔結果〕岡山県内での *M.kansasii* 感染症は、やはり水島工業地帯を中心として同心円状の分布を示していた。患者総数は1976年以後増加しているが、年次別に見ると1995年までは増加傾向であった年間の新患者数も、1995年をピークに増加傾向は認めない。環境水培養の結果、全てのサンプルで抗酸菌の発育を認めたと、DDH法で *M.gordonae* と同定され、*M.kansasii* は検出されていない。

〔考察〕*M.kansasii* 感染症は人から人へは感染しないとされているが、環境から菌の分離は確認されないにも拘わらず患者総数は増加している。そこで臨床検体からの分離菌の遺伝子検査を行い、それぞれの菌株における分子学生物的な類似性を調べ、ヒト-ヒト感染の可能性を検討していく必要があると考える。